

神ノ川ヒュッテ通信 第103号

発行日 平成31年 1月20日
発行者 神ノ川ヒュッテ代表 杉本 憲昭
相模原市緑区小淵1545-1
北丹沢山岳センター内
TEL042-687-4011 FAX042-687-3980

東海自然歩道 昨秋より通行不能

昨秋の台風はあちこちで大きな被害をもたらしました。神ノ川ヒュッテより犬越路に至る東海自然歩道では、犬越路峠の手前の犬越路トンネル方面の分岐で大量の土砂被害により登山道が崩壊し、今なお通行できません。東海自然歩道の管理は、国・県・市町村の管轄となっており所在が不明です。現場である神ノ川ヒュッテの管理人が苦勞しながら一部手直しや登山者へ指導を行っています。



なぎ倒された山中の木々

今春の北丹沢・神ノ川流域の山開き

4月14日(日)に実施します

今年も春の恒例行事であります神ノ川山開きを4月14日(日)に実施いたします。AM8:30~9:30 折花神社に集合し鈴木神宮にて举行します。その後参加者のみなさまには林道周辺の清掃活動をお願いしております。ご参加いただける方は北丹沢山岳センター宛にメールまたはファックスをお願い致します。



● お問い合わせ ●

北丹沢山岳センター

TEL 042-687-6863 FAX 042-687-3980 MAIL: kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

神ノ川ヒュッテものがたり (その1)

幾多の困難を乗り越えて26年間

北丹沢の奥地神ノ川ヒュッテは昭和33年青根の土工の佐藤盛次氏により神ノ川ヒュッテとして建設された。その当時来るべき昭和30年の神奈川国体のために各登山道が整備され、山小屋が神奈川県によって多く建設された。原小屋、長者舎等も同時期に造られ、登山ブームに火をつけて当時は日本人の海外登山の初登頂の成功も報じられた。しかし昭和50年代に入ると北丹沢への登山者が減少し各小屋の経営が成り立たず、原小屋に続いて長者舎の閉鎖、神ノ川ヒュッテの経営者である佐藤盛次氏の死により昭和52年に神ノ川ヒュッテも閉鎖となった。また、昭和37年には長者舎の初代管理人山田操二氏がオートバイで神ノ川林道より転落死、その後一時閉鎖されていた長者舎が昭和44年に秋本正樹氏により再開されたが登山者の減少に伴いアルバイトとして皮財布や番傘などを作り生計を立てていた。しかし昭和53年に神ノ川林道で自動車と共に転落し、帰らぬ人となってしまった。こんな折りで北丹沢(当時は裏丹沢といった)には山小屋の廃止廃業が続き全ての山小屋が全滅してしまい、残るのは神ノ川ヒュッテと蛭ヶ岳山頂にある蛭ヶ岳山荘だけとなった。



かつての長者舎小屋山荘(現在取壊済)

写真提供: 前田京剛氏

神ノ川ヒュッテのオーナーが語る(杉本憲昭)

神ノ川ヒュッテ60年

丹沢山塊のサポート基地へ V0.1

神ノ川ヒュッテは佐藤盛次氏により起業し、それをサポートしたのが当時山岳党の加藤盛男等の若き山のグループであった。一方長者舎は、上野原の東斐山岳会がここを会の発祥の地として使っていた。丹沢の会によって充実が計られ、東斐山岳会では裏丹沢の登攀など盛んに開発され、その成果を東斐山岳会発行の成果として発表し、多くの裏丹沢の愛好家によりおおいに利用された。昭和39年後半には津久井山岳協会が発足し、神奈川県山岳連盟に加入し、理事長の杉本憲昭により牽引され、杉本憲昭が参加し丹沢登山訓練所が全国で初めて神奈川県山岳連盟によって発足した。神ノ川ヒュッテの佐藤盛次氏が中心となり山岳党、藤野山岳会の杉本等により広河原基点として主脈への地蔵新道、主稜への源蔵新道などの登山道開拓の実績を残した。

神ノ川林道 道路情報

神ノ川林道の大瀬戸トンネル手前の二本の悪沢が大崩落し昨夏より災害復旧工事が進められ、今年1月現在も工事中です。積雪や雨等の際には充分注意の上通行ください。



神ノ川ヒュッテ周辺日陰沢情報

神ノ川ヒュッテ横の日陰沢の支流での5~6年前大崩落箇所を神奈川県自然環境保全センターが昨年12月より改修工事を行っています。今年3月末に完成予定となっています。

